

「新しい殺菌技術へのアプローチ」

石坂 和彦
(エルエスジー株式会社)

熱感受性の高い装置や材料の動物実験施設への搬入方法は、常に研究者、施設管理者の間で問題となっている。

最近まで頻繁に使用されてきたエチレンオキサイドや類似化学物質は、人体への影響が懸念されている。その結果として、欧米では既にエチレンオキサイドの使用を中止しており、また国内の実験施設においても使用中止を検討し、代替物質を使用し始めている傾向にある。

当然のことながら、代替物質はそれら従来の化学物質と同等か、それ以上の効果を有し、同時に低い毒性を保証しなければならない。

近年、数多くの代替化学物質が開発され研究されてきた。そしてその多くには、確実に高い消毒効果が認められ、さらに数種には滅菌効果も認められた。

その中から本日は、過酸化水素を用いた殺菌方法を紹介する。

この過酸化水素を適切に使用するには、多用途に使用可能な殺菌専用チャンバーが必要であると同時に、両者を組み合わせたバリデーションが非常に重要となる。

本日のミニシンポジウムでは、過酸化水素ガス発生装置のみならず多目的に使用可能な専用の殺菌チャンバーについても紹介をしたい。